

＼景観づくりの基準を考えよう／ 第1回 ニシカタ地区 景観勉強会

景観形成重点地区ってなんだろう？

開催日時：2025年11月18日（火）19：00～20：30
会場：沖縄県立芸術大学首里当蔵キャンパス 一般教養棟 302教室

第1回のゴール（目標）

- 今回の勉強会では、市内で“景観形成重点地区”としている3地区の事例を紹介し、重点地区の制度や基準などについて、知ってもらうことをめざします。
- また、ニシカタ地区のいまの景観について、改めて考えたうえで「将来、どんなまちになったらいいかな？」とお互いのイメージを出し合う場になることをめざします。
- 次回以降の勉強会で話し合う、基準の内容や範囲の検討に向け、課題の整理や将来像のイメージが進むことをめざします。

プログラム

- ・開会のあいさつと説明・・・・・・・・・・・・・・・・（10分）
- 【第1部】事例研究・・・・・・・・・・・・・・・・（25分）
 - ①②③資料説明
 - ★ワーク1 3地区の変化や効果は？
- 【第2部】ニシカタの景観を考える・・・・・・・・（50分）
 - ④⑤⑥資料説明
 - ★ワーク2 地区のいまとこれからを考えてみよう
- ・次回にむけたアンケートの記入・・・・・・・・（5分）

第1回 景観勉強会の流れ

【第1部】事例研究

① 市内重点地区の取組みについて

- ▶首里金城地区・龍潭通り沿線地区・壺屋地区の概要
- ▶金城町と壺屋では、中心部と背後地でゾーン分けされており、背後地の基準はゆるやかに運用
- ▶それぞれ約20年が経過し、徐々に歴史的な風情のあるまちなみとなっている

② 市の助成制度と重点地区の位置づけ

- ▶市では、一定の条件を満たす修景工事（赤瓦屋根工事や石張り工事など）に対して100万円を上限に助成

③ 3地区のアンケート結果（速報版）

- ▶「重点地区に指定されていることについて」ととても良かった・まあ良かったと感じる方が、各地区7～8割
- ▶「建築の制限や維持管理の負担」について、金城地区では負担に感じる割合が高い



【第2部】ニシカタの景観を考える

④ まちの成り立ちをふりかえる

- ▶王朝時代は、地区一帯に士族の屋敷が、池端町には市場があり、賑わいを見せていた
- ▶首里城を起点に各方面へ向かう道があった

⑤ まちなみをつくる景観要素のいま

- ▶みち・石垣・植栽・赤瓦の屋根などの景観要素の分布状況を、地図上で客観的に把握
- ▶樋川（ヒージャー）や井戸（カー）からは昔の姿を感じられるが、地区内では住宅の建て替えが進み、往時の石垣が減っている

⑥ 写真でまち散歩

- ▶モノレールや虎頭山、首里城から地区全体の景観をみてる
- ▶宿道やスーパースタイルなど、歩いたときの目線でまちの様子をみてる



★ワーク1★ 3地区の“変化”や“効果”は？

～事例をもとに重点地区の意義や運用を考えてみよう～

3分

各自で
書き出してみよう！

「いいね！」
と感じたこと

「気になったこと」

1分

簡単に自己紹介
（ゆかりのある地域とお名前）
＋
書き出したものを各自
1分程度で発表

5分

グループ内で共有
コメントを分類したり
整理をしてみよう！

★ワーク2★ ニシカタ地区の“いま”と“これから”を考えてみよう

～現状をみて、課題は何か考えてみよう・将来のイメージを膨らませてみよう～

5分

各自で
書き出してみよう！

いま
「いいね！」
と感じたこと

いま
「気になった
こと」

これから
「こうなったらいいかも！」

1分

書き出した
ものを各自

1分程度で
発表

10分

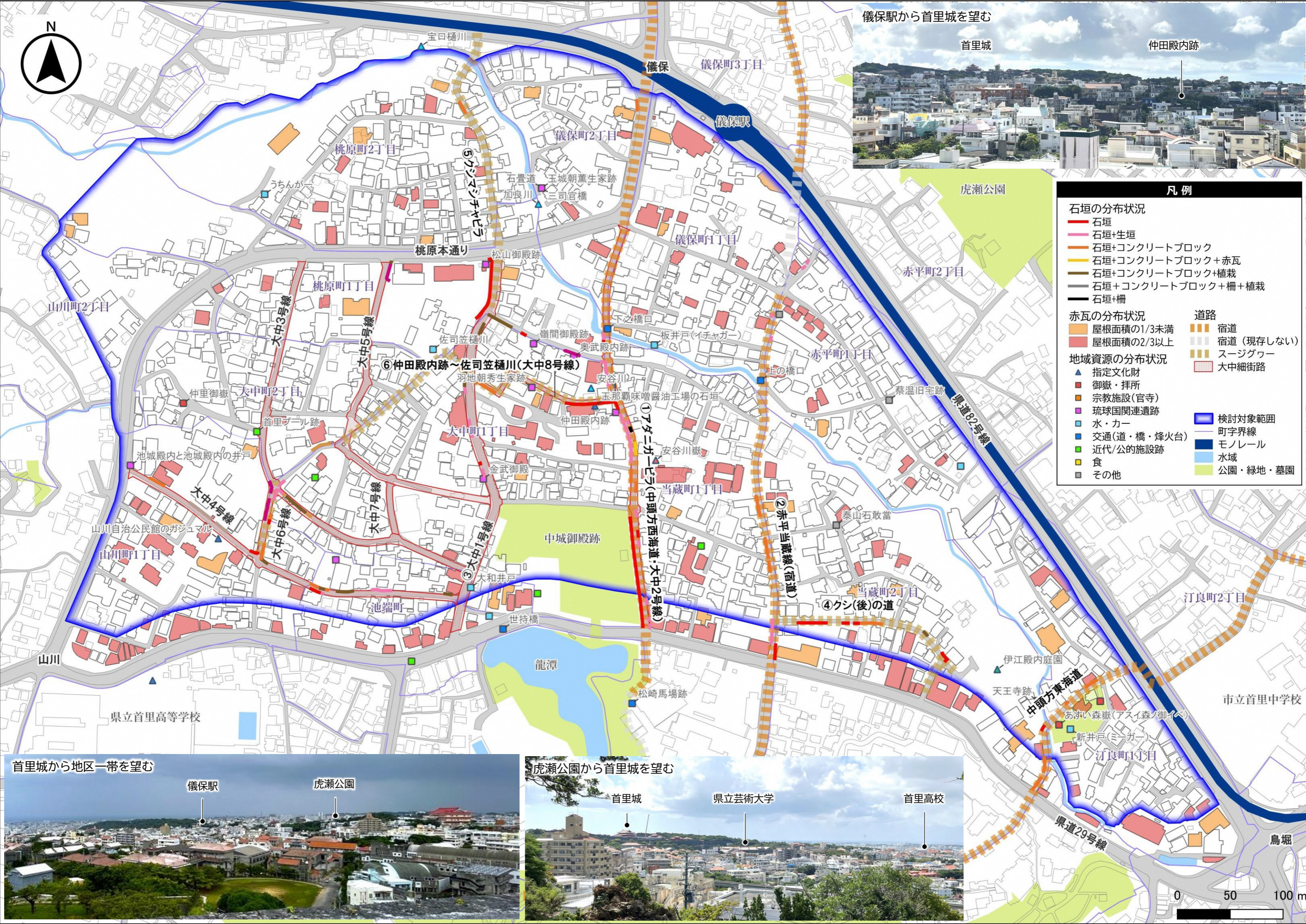
グループ内で
共有

コメントを分類したり
整理をしてみよう！

まとめ発表

3分

ワーク1と2の内容を
グループごとに
発表
発表者は、希望者が
ファシリテーター
のどちらでもOK！



儀保駅から首里城を望む



首里城から地区一帯を望む



虎瀬公園から首里城を望む

